

## 「笹原教育ICT展」児童の成果物をプロジェクターで投影した効果的な発表会場

学年	全学年
教科・領域	総合
ICT機器やアプリ名等	Keynote Pages プロジェクター Reality Composer※

※ Reality Composer:AR体験のプロトタイプやコンテンツ制作を簡単に行うことができるアプリ(iPad OS)

### ICT活用のポイント

- ・電子媒体は、紙媒体と違い、提示装置(テレビやプロジェクター等)を使うことで、拡大・縮小が容易にできる。提示する児童の成果物を、会場規模等に合わせ適切に選択することで、活動の様子や内容をより効果的に伝えることができる。
- ・アプリを活用すると簡単にARのデータが作成でき、それらをQRコードから読み取ると、端末を活用したAR体験といった新しい発表形態も構築することができる。

○行事を通した学びや、学校紹介を端末で表現

テーマ 5年生「自然学校で学んだこと」  
6年生「修学旅行で学んだこと」

- ・学習活動を3部構成(事前学習、当日の活動の様子、行事後のまとめ学習)で、それぞれ端末を使ってまとめた。
  - ・本校で系統的に推進しているICTの利活用について「学習方法」「共有方法」「課題や宿題の取組」等の取り組みを、一部動画にまとめ、「学校紹介動画」として展示(発表)した。
  - ・発表は、プロジェクターを使って体育館の壁面に投影し、端末を活用した学びを具体的に提示した。
- ⇒他学年の児童や保護者に普段の教育活動における端末の活用状況等を、広く周知することができた。



会場の様子



# 情報モラル教育 文部科学省作成「YouTube動画」を利用

学年	4・5・6年生
教科・領域	総合的な学習の時間
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Apple TV</li> <li>・ YouTube</li> <li>・ school Takt</li> </ul>

### ICT活用のポイント

- ・文部科学省作成の動画 教材「情報モラル教育教材」はインターネット上 (YouTube) で公開されているので、授業後も児童が振り返りとして何度も閲覧したり、保護者にも同じ動画を見てもらうことができる。
- ・学習教材をデジタルで作成し、作成したデータを教員共通の「共有フォルダ」に保存することで、いつでも活用することができる。

### ○動画教材を活用した情報モラル教育の実施

授業の導入でインターネットの基本的な言葉やシステムについて自作教材で学習した。

展開では、文部科学省の動画を視聴しました。その後、授業支援システム(school Takt)を活用し、学習内容のふりかえりを行った。

情報に関する諸問題について、自身と重ねて考える姿が見られた。そうすることで、情報モラルについての知識を深めることができた。

【参考】文部科学省情報モラル教材

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f-4u\\_Mx-BCn13GywDI](https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f-4u_Mx-BCn13GywDI)

### ○自作資料の共有化

授業内で使用したスライドを動画化し、授業支援システムにアップロードしておくことで、自宅でも授業内容のふりかえりとして活用することができるようになった。



▲板書の一例



▲自作資料の一例

自作資料は、動画化し、学習の振り返りで使用できるよう共有フォルダに保存



# クラスの友だちと相互理解を深めよう

学年	1年
教科・領域	特別活動 情報モラル教育
ICT機器や アプリ名等	Chromebook Google Classroom ひょうごGIGAワークブック

### ICT活用のポイント

- ・URLから直接PDFをインストールする場合は、アクセスが集中してしまい、不具合が出る恐れがあるため、担任がクラウドを使って個別配布している。
- ・一斉配布は、生徒端末の保存場所が統一されるので、データの在処が明確で次回の活用にもつながる。
- ・自分の考えを書き込んでから意見交流をすると、考えが固まってしまう、お互いの意見の紹介で終始してしまった。課題の選択肢を選んだ後、そのまま意見交流をすると、活発な話し合いの時間になる。

### ○端末を活用した情報モラル教育の実施

ひょうごGIGAワークブック「情報モラルを学ぼう」  
【授業の流れ】

- ① クラスの友達から言われて「いやだな」と感じる言葉を5つの選択肢から1つ選択。
- ② ①で選んだ言葉とその理由をグループで交流。
- ③ 「いやだ」と感じる言葉が友だちと異なる場合に、発展するトラブルについて考え、クラスで共有。
- ④ 各グループの意見を聞いて気づいたことを交流。
- ⑤ SNS等でクラスの友達からされて「いやだ」と感じるを順に並べ替え。
- ⑥ グループで意見交流し、代表が発表。
- ⑦ ワークブックに気づいたことを記入後、交流。

⇒人によって、感じ方や受け取り方が違うことに気づくことができた。また、今後は人によって捉え方が違うことを理解し、自分はどうするかを吟味した上で、コミュニケーションをはかる必要があることを理解できた。



授業内容の説明



各自の意見を端末で記入している様子